



公益財団法人

大分県芸術文化スポーツ振興財団

Oita Prefecture Arts, Culture and Sports Promotion Foundation

今号のiIOでは、大分県立美術館で開催の「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」や「ムーミン展 THE ART AND THE STORY」、iichiko総合文化センターで開催の「アラベラ・美歩・シュタインバッハー ヴァイオリン・リサイタル」や「ウェールズ弦楽四重奏団 ベートーヴェン 弦楽四重奏曲全曲演奏会[第4幕]」など今春から夏にかけての展覧会や公演事業、9月20日～11月2日に開催のラグビーワールドカップ2019日本大会の会期中に行う事業やイベント、さらには、年間を通して取り組む「制作バレエ『眠れる森の美女』」や「ミュージカル体験ワークショップ」、美術を活用した教育普及活動、国際交流などの事業を紹介します。



# 日本の竹工芸の 緻密さや滑らかな曲線は 素晴らしい

生野祥雲齋〈七宝文煤竹網代編盛籠〉1947年頃

JAPANESE BAMBOO ART FROM NEW YORK: THE ABBEY COLLECTION  
GIFTS TO THE METROPOLITAN MUSEUM OF ART



飯塚瑠玕齋〈文筥〉1920-1930年代頃



生野徳三〈流〉1993年

メトロポリタン美術館で学芸員を務める  
モニカ・ピンチクさんが監修した「竹工芸名品展」が  
大分県立美術館で開催されます。  
モニカさんに日本の竹工芸への思いや、  
展覧会の魅力を伺いました。



メトロポリタン美術館  
アジア美術部 学芸員

**Monika Bincsik**

モニカ・ピンチク

The Abbey Collection. "Promised Gift of Diane and Arthur Abbey to The Metropolitan Museum of Art."  
Images©The Metropolitan Museum of Art.

本展覧会はニューヨークにてメトロポリタン美術館が主催した Japanese Bamboo Art: The Abbey Collection 展を日本向けに再構成したものです。

# 竹工芸名品展:ニューヨークのアビー・コレクション メトロポリタン美術館所蔵

5/18(土)~6/30(日) ▶大分県立美術館 3階 展示室B

[時間] 10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで) [料金] 一般1,000円(800円)/大学・高校生700円(500円)※( )内は20名以上の団体料金、中学生以下無料  
※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。[問]大分県立美術館 Tel:097-533-4500



本間一秋《いぶき》1968年

## —今回展示されるアビー・コレクションとはどのようなものなのでしょうか？

アビー・コレクションとは、ニューヨークのコレクター、アビー夫妻が約20年前から集めている、230点にも及ぶ竹工芸コレクションのことです。1990年代に、アメリカのある個人コレクターが竹工芸を集め、ニューヨークで展覧会を開きました。それがきっかけで、アメリカでは竹工芸のコレクターが増えました。その中でもアビー夫妻は代表的なコレクターです。コレクションの特徴は、明治・大正・昭和の作品だけでなく、今活躍している現代美術家の、彫刻のような立体作品も収集している点です。

アメリカのコレクターの特徴として、共箱(作家が自ら箱に署名等をした作品を入れる箱)に入れて収蔵庫にしまいい込むだけでなく、実際に花を活けたり現代美術の絵画と一緒に部屋に飾ったりしています。今回の大分県立美術

館の展覧会でも、絵画などと一緒に展示する予定です。

2017年には、アビー夫妻がコレクションの中からメトロポリタン美術館に70点以上の作品を寄贈してくれました。そのおかげでメトロポリタン美術館でも、竹工芸の展覧会を開くことができました。メトロポリタン美術館で行ったこの展覧会を、今回、竹工芸が盛んな大分で開催できて嬉しいです！

## —日本の竹工芸の特徴を教えてください。

日本の竹工芸のひとつの特徴は、曲線が滑らかなことです。籠にしても、現代美術にしても、線が綺麗です。アメリカでも物を入れる籠は制作されますが、日本のように非常に細かく、美意識が感じられるような作品はほとんどありません。中国や他のアジアの国々の竹籠にもあまり見られない特徴です。

メトロポリタン美術館で開催された竹工芸の展覧会を見たアメリカの人々は、竹工芸のバラエティの豊かさや驚いていました。お茶道具などに使用されてきた長い歴史があることや、その伝統が守られてきた点、石や金工を使用することなく、竹だけで立体作品を作っている点を面白いと感じています。

一方で、伝統的な編み方を守りながらも、今の竹工芸作家さんの多くは現代美術作品を作っています。アメリカでは、現代美術作品として制作された立体的な竹工芸を、アビー夫妻のようにコンテンツポラリーアートと合わせて飾る人もいます。このようにアメリカでは、日本の竹工芸の実用品から美術

品への変遷にも関心が持たれています。

## —以前九州を訪れたそうですが、どういった印象を受けましたか？

九州には、メトロポリタン美術館で竹工芸の展示をする際に、竹工芸について勉強するために行きました。九州のイメージとしてはまず、自然が素晴らしい！すごく綺麗で感動しました。特に印象的だったのは、竹林が日常に溶け込んでいることです。アメリカで竹工芸はたくさん見えてきましたが、竹林を見る機会はほとんど無かったので、大分にはたくさん見ることができて驚きました。また、日本で竹は籠だけでなく建築や料理の盛り付けにも使っていますよね。日本人と竹の生活を拝見できて良かったです。



今回展覧会を行う、大分県立美術館の外観も竹工芸からインスピレーションを受けたように思いました。初めて竹工芸の分野で人間国宝になった生野祥雲齋(しょうのしょううんさい)を筆頭に、九州の竹工芸のコレクションも素晴らしいと感じました。

展覧会では、九州の作品を大きく取り扱っています。なぜなら、九州は質の良い真竹が取れるため古くから竹籠の産地として知られていますし、生野祥

## —今回の展覧会の来場者の方々へメッセージをお願いします

竹工芸は生活道具としてだけでなく、日本美術の中の竹工芸である点に注目して欲しいです。

かつては竹籠が道具として使用され、やがて工芸として扱われるようになり、現在ではファッションとしても関心を持たれています。その発展の流れも必見です。今回、竹工芸だけでなく日本の美術品と合わせて展示もします。竹工芸が屏風絵などと同じように、アートの一部だと感じていただければ嬉しいです。

同時に若い作家さんの存在と、アビー夫妻のように竹工芸のコレクターの存在も知ってほしいです。日本では華道などに携わる方以外に、アビー夫妻のように竹工芸を集めている人はまだまだ少ないように感じます。竹工芸を作ることは、技術面ではもちろん、プラスチック製品に押され、作家の生活面も決して楽ではありません。

日本の竹工芸は、その緻密さや曲線の美しさが素晴らしいです。アメリカの学芸員もコレクターも今、日本の竹工芸のすばらしさを世界に伝えようとしています。そして、その伝統を守り続けて欲しいと感じています。若い作家さんがもっと活躍できるように、日本の個人の方もどんどん竹工芸作品を集めて、飾って楽しんでくれるような日が来ると嬉しいです。ぜひ、展覧会にも足を運んでいただきたいです！